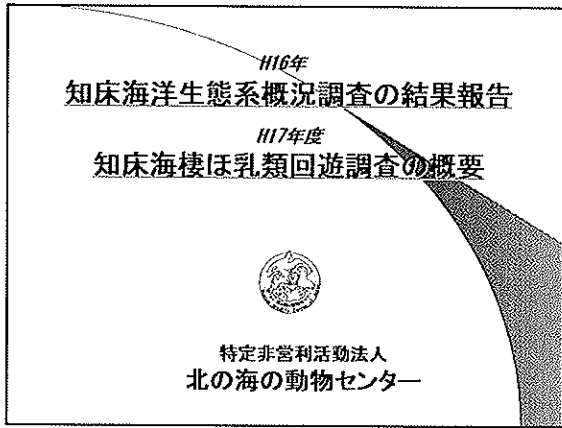


平成16年度 知床海洋生態系概況調査の結果報告

平成17年度 知床海棲ほ乳類回遊調査の概要

平成17年7月5日 北の海の動物センター



H16年 知床海洋生態系概況調査の結果報告

**目的**  
知床を世界自然遺産に推薦するにあたって

- ・知床周辺の漁業が持続可能なものであること
- ・知床周辺の漁業が海生哺乳類等の生態系に与える影響は最小限のものであること

漁業に関わる目々の資料はあるが、上記の目的に沿って集められていない海生哺乳類については情報すら収集されていない状況。漁業と海生哺乳類との関係については不明な点が多い。

↓

**過去の資料の整理と聞き取り調査を実施**

漁業の現況(月別の対象魚種・漁法・網数・網の枚数)  
海生哺乳類の現況(種・来遊季節・個体数・上陸場所等)  
漁業と海生哺乳類との関連

H16年 知床海洋生態系概況調査の結果報告

**調査概要**

調査期間: 平成16年3月12日(金)～29日(月)の18日間  
調査内容:

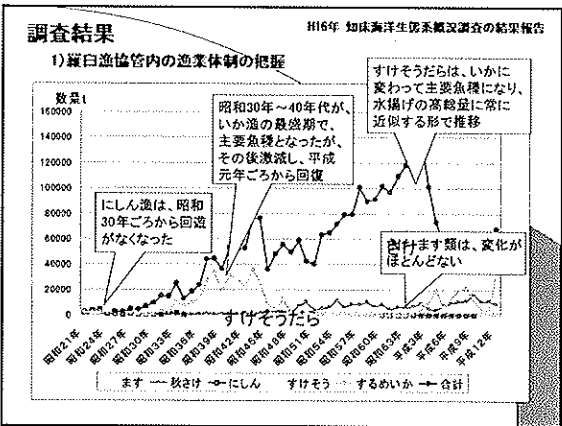
- 1) 羅臼漁協管内の漁業体制の把握
  - 羅臼漁協での情報収集  
平成15年度の月別の対象魚種、漁業者数、漁法・漁具の種類・大きさおよび位置等の聞き取り
  - 文献調査  
過去から現在にかけての漁獲データを集計し、魚種相等の月別・漁獲量、サイズ等についての比較
- 2) 海生哺乳類の情報収集
  - 羅臼管内での漁業者および船舶の運航をする者への聞き取り調査  
平成15年度の海生哺乳類の目撃情報収集、また過去との目撃回数および種、時期、上陸場所の比較についての情報を収集
  - 文献調査  
過去の海生哺乳類の個体数および種、時期、上陸場所の情報のまとめ
- 3) 漁業と海生哺乳類との関連
  - 電話による広域漁業者聞き取り調査  
漁業と海生哺乳類の関わりを知るために、斜網および小定置の漁業者を対象に電話による聞き取り

H16年 知床海洋生態系概況調査の結果報告

**調査結果**

1) 羅臼漁協管内の漁業体制の把握

- ① 羅臼漁協組合員 総数537名
- ② 漁法(漁業者数・対象魚種・漁具)
  - 定置(39名、さけ・いか、36ヶ所(1991)→23ヶ所(現在))
  - 小定置(28名、ほっけ・かれい・こまい・ます、18ヶ所(1995)→25ヶ所(現在))
  - 斜網(208名、すけとうだら・たら・めめけ・あぶらぎ、60隻→22隻(1995)→10隻(現在))
  - 釜籠(13名、すけとうだら・たら・めめけ・あぶらぎ、60隻→22隻(1995)→10隻(現在))
  - こんぶ漁業(346名、こんぶ、513隻(1995)→349隻(現在))
  - イカ釣り漁業(56名、いか、130隻(1990)→56隻(現在))
  - うに(たも)漁業(78名、うに)
  - 潜水漁業(13名、うに漁業、なまこ漁業、ほたてがい漁業)
  - たこ漁業たこ空釣り網(30名)
  - かご漁業(7名、えびかご漁業、つぶかご漁業)

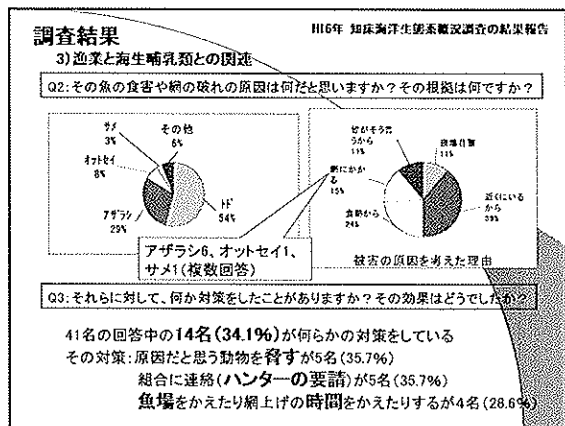
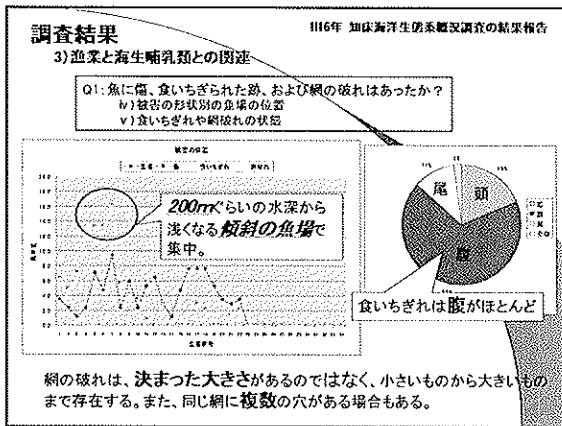
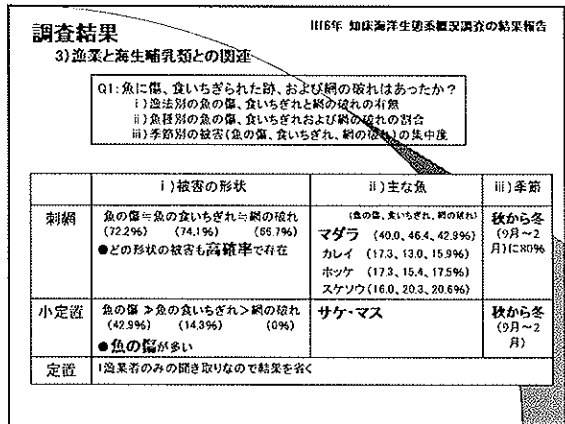
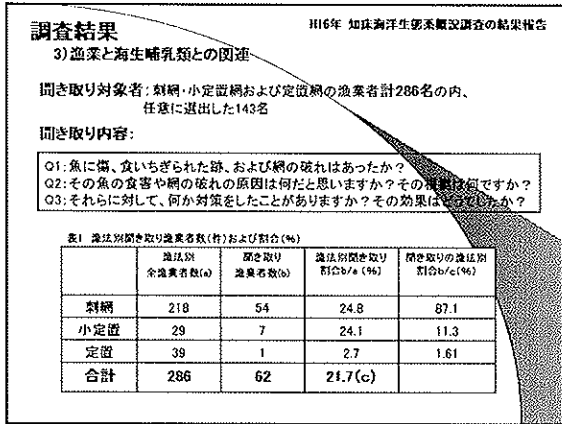


H16年 知床海洋生態系概況調査の結果報告

**調査結果**

2) 海生哺乳類の情報収集

	聞き取り調査(聞き取り対象者10名)		文献調査 (一部抜粋)
	回遊状況	過去との個体数の比較	
トド	12～1月に群れで目撃。上陸はほとんど見られない。八木浜付近で目撃多い	変化なしか減少(?)。漁業被害は増加	・1990年代では10月に羅臼沖に約200頭の定常的な群れが来遊して、いくつかの岩礁に上陸 ・1月中旬の来遊期になくなり、3月中旬の海あけになれば戻ってきて、5月の中旬までいる
アザラシ	11～3・4月に単独遊泳が流氷に上陸しているのを目撃。主にコマアザラシとクラカケアザラシ	変化なし(一部では減ったという意見も)。H15年度はクラカケアザラシをよく目撃した	・クラカケアザラシとコマアザラシが多く、個体数の比は両者でほぼ同数か、あるいはクラカケアザラシが多い ・コマアザラシは夏季時期に羅臼沿岸で定住している個体があった ・かつてはゼニガタアザラシの繁殖場があった
鯨類	獲前からミンクシラやイルカを大変よく目撃	増加(皆一致した意見)	

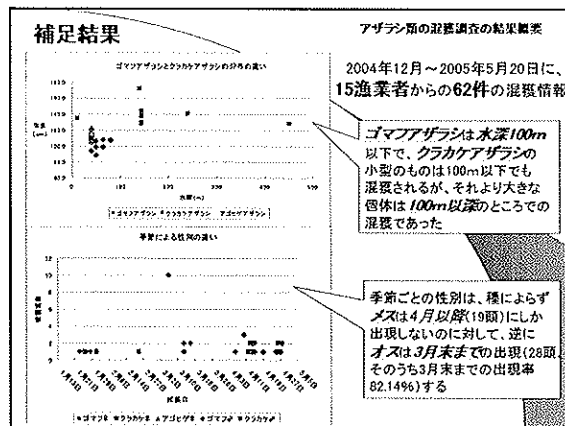


### まとめと課題

III6年 知床海洋生態系調査の結果報告

- 刺網は、魚の傷・食いちぎれ・網の破れの3つの被害の形状が同所的に起こる
- 小定置網で見られる被害の形状は、魚の傷がほとんど  
 ※定置網における傷は定置網の位置によらず、漁獲量の3%~4%程度でほぼ一定
- 被害の原因は、トドかアザラシだと考えられている
- 秋から冬にかけての時期に、マダラ・スケソウ、カレイ、ホッケなどの魚種で被害が多い  
 ※調査内容分析(数量:199)から、トドはマダラ、スケソウなどが上位を占めており、アザラシはスケソウが一位を占めており、ホッケやカレイも出現し、マダラはそれ以下の順位に出現
- 200mぐらいの水深から浅くなる傾斜の魚場での被害が多い  
 ※トドの遊泳が良く見られる場所である。また、刺網へのアザラシの混獲はかなりあるらしい。

動物(トドやアザラシ)の季節ごとの分布状況の調査や魚の被害があった場合の網の状況や動物の混獲などの情報を含め、総合的に考えていく必要がある。



### 目的

知床の世界自然遺産登録推進施策の一環として、アザラシ類の保護管理を的確に進めて行くために、基礎データの収集と蓄積を目的に生息・回遊状況及び被害実態調査を実施



- ① アザラシ類等の季節ごとの分布状況の情報がない
- ② 季節ごとの被害の場所や状況が不明
- ③ アザラシ類の混獲による被害と季節による場所が不明
- ④ アザラシ類の回遊ルートや利用する水深の解明が必要

### 調査概要

#### ●アザラシ類等生息実態調査

船倉によるラインセンサスおよび地上からのセンサスの実施

季節ごとの生息状況の把握が目的 ※同時に、トドや鯨魚の調査も実施

調査時期：9月：下記以外

11月：アザラシ類の移動期

1月：アザラシ類の生息期

3月：アザラシ類の繁殖期

船積によるDNAの採取および発信機の装着

回遊ルートおよび生息海域の解明が目的

調査時期：2月～3月：流氷期

#### ●漁業被害実態調査

混獲および被害の情報収集と混獲死体からのサンプリング

季節による被害の形状とその場所、混獲の状況の把握が目的

※同時に、トドや鯨魚の調査も実施

調査時期：船積および陸上からのセンサスの同時期